

# 生体情報連携システム

2012年4月20日

医療法人 医仁会 さくら総合病院



# 病院概要

所在地

愛知県丹羽郡大口町



沿革

- 昭和55年 大口外科クリニックとして開設
- 昭和58年 大口クリニックへ名称変更
- 平成8年 さくら病院へ名称変更
- 同年 老人保健施設 さくら荘 開設
- 平成10年 訪問看護ステーション あすかビレッジ開設
- 平成11年 居宅介護支援事業所 あすかビレッジ開設
- 平成12年 ヘルパーステーション あすかビレッジ開設
- 平成19年 電子カルテ導入
- 平成20年 デイケアセンター 御嶽開設
- 同年 有料老人ホーム 太郎と花子（第1期）開設
- 平成22年 さくら総合病院へ名称変更
- 同年 **iPad 155台 iPhone 20台導入**  
**iPad画像共有システム、**  
**救急消防連携システムおよび**  
**院内資料閲覧システム運用開始**
- 平成23年 有料老人ホーム 太郎と花子（第2期）増設
- 同年 **iPad2 10台導入**  
**リハビリテーション動画写真活用システム**  
**運用開始**
- 平成24年 **iPad（第3世代） 20台導入**

現在  
さくら総病院

一般病床 232床 療養病床 158床 計 390床

さくら荘

一般病床 118床 ショートステイ 5床 計 118床

太郎と花子 計 300床

法人合計 808床

1日外来患者数 平均 700名

救急件数 月平均 180件

ドクターカー出動件数 月2～8件

設置診療科 消化器病・外傷センター

循環器・呼吸器・総合内科センター

ハートセンター

運動器・形成センター

神経・糖尿病・感染症センター

こども・女性疾患センター

脳卒中脊椎脊髄センター

ER（救急）センター

皮膚疾患センター

腎・尿路疾患センター

眼の疾患センター

耳・鼻・喉疾患センター

デンタルセンター

ペインクリニック

ストレス外来・禁煙外来・ヘルニア専門外来

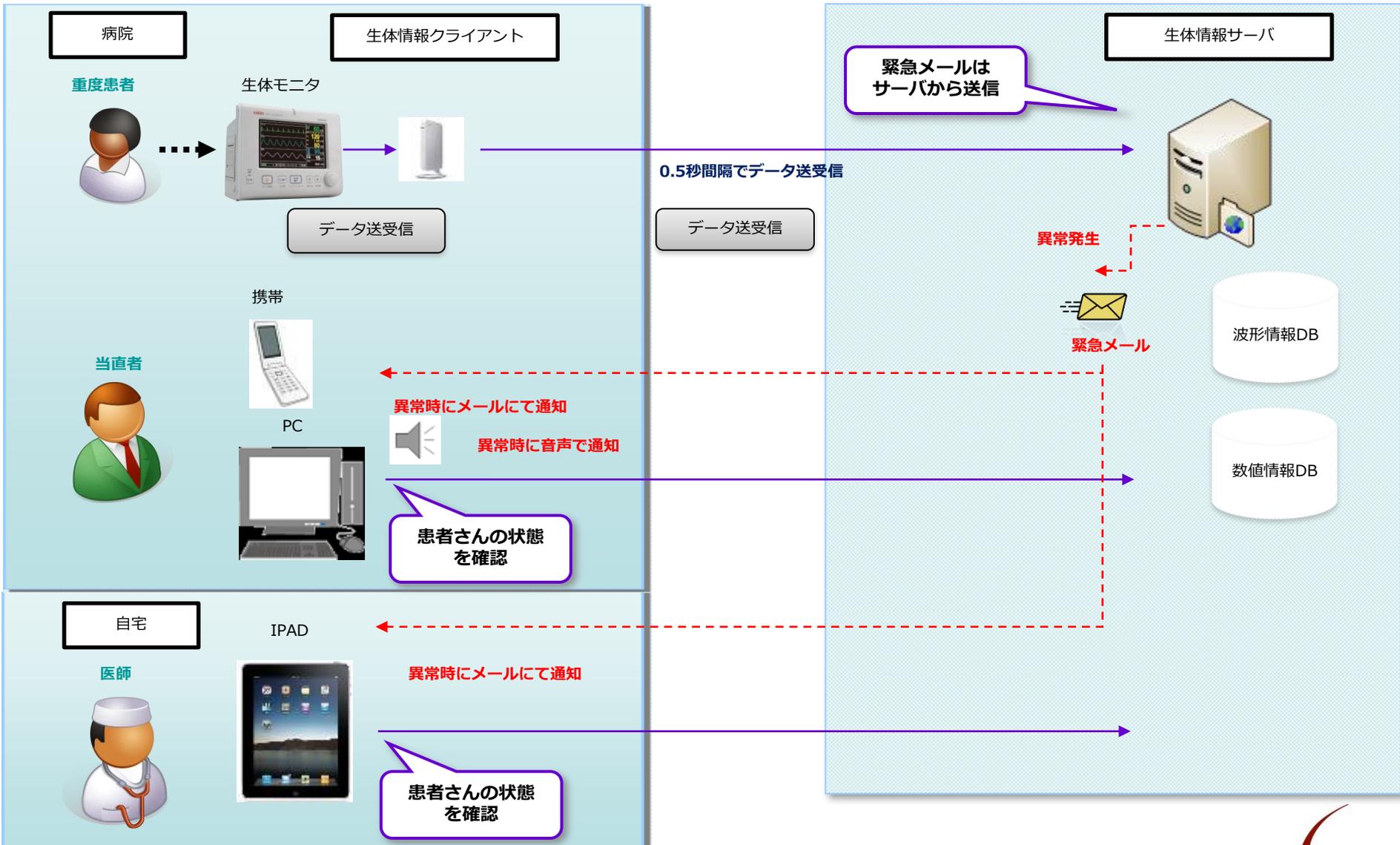
## 導入背景

当院は救急2次病院です。昼夜を問わず救急患者が運ばれてきます。そんな中で軽傷の人は早く退院できますが、脳卒中を患った人などは発症した時から重度の障害を残す人もあります。これらの突然発症した重度の人は強制的に自宅へ帰されたら家族はどうなるのでしょうか。その時から家族の生活は全く変わってしまいます。全身介護のみならず、夜間を通じて病人の監視が必要となります。短期間であれば頑張ることもできそうですが、これが、何か月・何年ともなると家族の心労は想像を絶するものがあります。

厚生労働省は医療費抑制のために病院の在院日数を減らし、在宅へ患者を帰すことを理想としています。例え、介護保険で介護の軽減が図られたとしても基本には家族の介護に頼らざるを得ません。病人の事が心配で外出もままならず、夜間の眠りも短時間ごとに起きなければなりません。こうした家族負担を生体情報をIT化することにより、離れた病院で情報を確認します。異常時に警報を鳴らすとしたら、家族も安心して病人を連れ自宅へ戻れるでしょう。本システムが潤沢に稼働すれば、在宅医療は革新的に発展すること間違いありません。



# システム概要



# 機能

## ・ 数値画面表示

血圧、動脈血酸素飽和度、脈拍数、呼吸数、心拍数、体温の表示を行います。異常時はリアルタイムに表示を行い、正常時は5分に1回の表示を行います。1ヶ月分の数値データは参照可能です。

状態	設置施設	測定日時	患者	モニタ	MBP測定			SpO2測定			その他						
					最大 (mmHg)	最小 (mmHg)	平均 (mmHg)	脈拍 (1/min)	SpO2 (%)	脈拍 (1/min)	呼吸 (1/min)	心拍 (1/min)	体温 (℃)	状態 (単位)	体重 (kg)	BMI (kg/m <sup>2</sup> )	歩数 (歩)
正常	IC0001 さくら総合病院	2012-04-16 16:49	試験 太郎 (20才 男)						99	74	33	73	-				
正常	IC0001 太郎と花子	2012-04-16 16:39	試験 富美 (20才 女)						100	85	-	-	-				
異常	IC0001 太郎と花子	2012-04-16 16:59	試験 花子 (20才 女)						78	202	-	-	-				

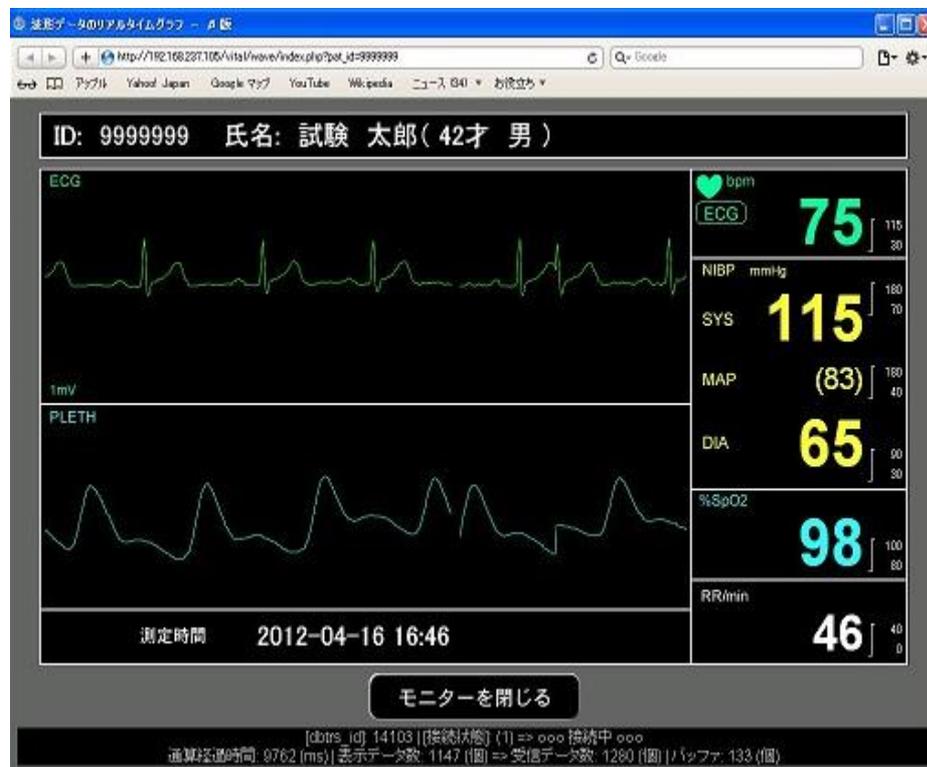
# 機能

## ・ 波形画面表示

心電図、プレシスモグラフィの波形表示を行います。

常にリアルタイムな波形データの表示が可能です。

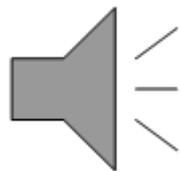
数値画面表示よりボタンを押すか異常時は数値画面表示より自動的に波形画面が表示されます。



## 機能

### ・ 音声通知

異常時、PCの音声で異常を通知します。



### ・ メール通知

異常時、緊急メールが設定したアドレスへ送信されます。



## 導入効果

院内、老人ホーム、老人保健施設にて患者さんの状態をPCにて常時監視可能となりました。

患者さんに異常が発生すると当直者が持っている携帯にメール配信され、すぐにかげつけることが可能となりました。

当直室にいる場合はPCの音声にて異常が通知されます。

また、患者さんに異常が発生した場合は、院外の医師が持っているIPADより患者さんの状態をリアルタイムに閲覧可能となり敏速に指示を行うことが可能となりました。



## 今後の展開

在宅の患者さんが、有線やモバイルデータ通信ネットワークを利用して生体情報モニタとシステムを利用できるような環境の構築を進めます。



# 「参考」メディア掲載

## 救急消防連携システム・iPad画像共有システム

2012年2月 月刊 新医療 2月号『救急医療に対応するiPadの有用性と今後』

2012年2月 中日新聞 『愛知の病院 つなごう医療 no.1821』

2012年2月 毎日新聞 『くらしナビ 医療&健康』

### WEB掲載記事参考URL

2010年10月 upstream配信

『Softbank Days 2010～iPadが変えるワークスタイル～』

<http://www.ustream.tv/recorded/10307741>

2011年11月 マイナビニュース掲載 『事例で学ぶiPhone/iPad活用術 no.33』

<http://news.mynavi.jp/series/iphoneipadkatsuyo/033/index.html>

